



## あけましておめでとうございます

本年も3年連続でコロナ禍の中での新年となりました。昨年夏の第7波は過去最大の感染者数となりましたが、重症者の方は減りました。しかし、流行株だったオミクロン株は感染力が非常に高く、家族内感染を起こす方が多く出ました。この冬も、第8波到来の様相を呈し、BA.5株からBQ.1株への置き換わりが進んでおり、油断を許さない状況です。オミクロン株は周期的に変異しておりますが、この3年の経験から、私達はこのウィルスの性質や対処法の知識も習得しており、異常に恐れる必要はありません。しかし、ワクチン接種を含めた適切な防護策は今後も続ける必要があります。重症化率が低いウィルス株とはいえ、感染者数が急激に増加すれば重症の方も増加し、医療機関の逼迫を招くこととなります。当院では、開院前、昼休憩時、閉院前にはスタッフがドアノブ、待合室シート、手すりなど丁寧にアルコール消毒を施行しております。寒い冬ですが、朝から防災窓開放、定期的な換気も行っております。引き続き感染対策には万全を期して対処して参ります。

さて、本年は国の方針もあり、デジタル化の波が急速に進むことが予想されます。クリニック関連では、マイナンバーカードの保険証利用が既に始まっていますが、来年秋には現行の保険証を廃止し、マイナンバーカードと保険証を一体化するという方針が示されました。マイナンバーカード自体を持たれていない方もまだ多く、全容は不明ですが、不安に思われている方も少なくないと思います。患者さんの受診、薬剤、健診情報など一部の情報を医療機関と患者さんが共有できるなどのメリットが強調されていますが、私どもは患者さんが今後も安心して受診を継続できますよう、国や県からの情報を丁寧かつ迅速に皆様にご案内していきます。その他、オンラインを用いた診療予約や予約変更、来院できない患者さんに対するオンライン診療、電子処方箋などは進めていかねばならない喫緊の課題とも考えています。当院の予約専用ならびにお問合せ電話がいつも話し中でつながらないとのご叱責を多く承っております。電話対応には時間がかかり、対応人数にも限界がございます。今後オンラインでのご利用を丁寧にご説明して参りますので、どうぞご協力を宜しくお願い致します。

当院は今年で設立21年を迎えます。気候変動で頻発する豪雨による冠水や浸水、地震、火災などの自然災害、新型感染症によるクラスター等で診療継続が出来ない事態を招かないことが一番重要な使命と考えております。最近では電子カルテ、採血結果・画像の電子化が標準化しているため、通信障害が生じると診療そのものがストップすることもございます。バックアップ体制も十分敷いておりますが、事業継続計画（BCP）をしっかりと整備し、危機管理には万全の体制で臨む決意です。地域の皆様から地元のクリニックとして引き続き信頼され、「幅広い専門診療科とかかりつけ医機能を併せ持つ地域密着型クリニック」をスローガンに職員一丸となり、尽力してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。

最後に本年が皆様にとりまして、良い年でありますよう、お祈り申し上げます。

とうめい厚木クリニック 院長 河野 昌史